

安政地震と被災者の受容

2014年3月29日(土)

2013年度若手研究者支援シンポジウム

「災厄とトラウマ」

神戸大学大学院人文学研究科

東京未来大学モチベーション行動科学部

三村 昌司(Mimura Shoji)

1.安政江戸地震の概要

安政2(1855)年10月2日

- 直下型地震
- マグニチュード7前後、最大震度6
- 死者7000人以上？潰れ焼失家屋14,000余
→多くは圧死・焼死(特に焼死が多い)

野口武彦『安政江戸地震』(ちくま新書,1997)

諸井孝文・武村雅之「1923年関東地震における死者発生のプロセスー1855年安政江戸地震との比較をふまえて」(『歴史地震』21,2006)

安政江戸地震のさい足立区域
がどのような被害を蒙ったか、
ほとんど研究がない

1.安政江戸地震の概要

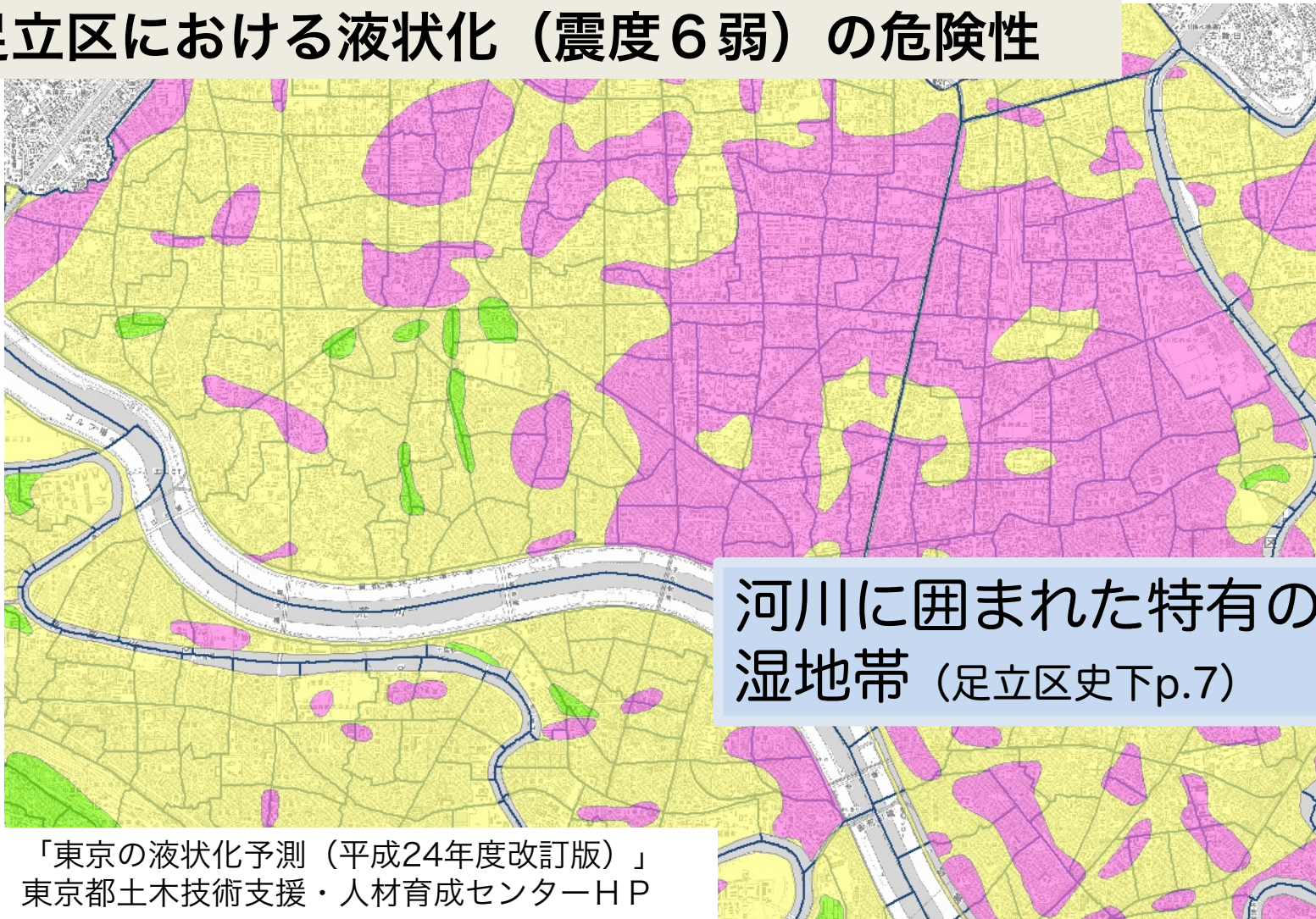


【参照】足立区HP

<https://www.city.adachi.tokyo.jp/jinji/ku/kuse/j-m-donnatokoro.html>

1.安政江戸地震の概要

足立区における液状化（震度6弱）の危険性



河川に囲まれた特有の
湿地帯（足立区史下p.7）

「東京の液状化予測（平成24年度改訂版）」
東京都土木技術支援・人材育成センターHP

2.安政江戸地震

(1)足立区域の被災状況を示す史料

- 東京大学地震研究所編『新収日本地震史料』
(全21冊、1981-94年) など
歴史地震の大部の史料にも足立区域の記載少ない
- 佐山守『安政江戸地震災害誌』(海路書院,
1973年の復刊)は、地域別に被害状況を記す
史料がまとめられている

足立区関係はわずか1件

足立区は「江戸の外」だったので
当時調査が及んでいない

2.安政江戸地震

(1)足立区域の被災状況を示す史料

『安政見聞誌』

仮名垣魯文・燕栗園千寿作

「安政の大地震といえは、その様子を最も克明に記録した資料として『安政見聞誌』・・・が、まず頭に浮かぶ。大地震の始まりから、災害の様子、焼失状況、人的被害、個々人の悲喜劇まで、詳細に記録された第一級の作品である、といっても差し支えない」

(若水俊「『安政見聞誌』は仮名垣魯文の作か」『茨女国文』12,2000年,p.1)

2.安政江戸地震

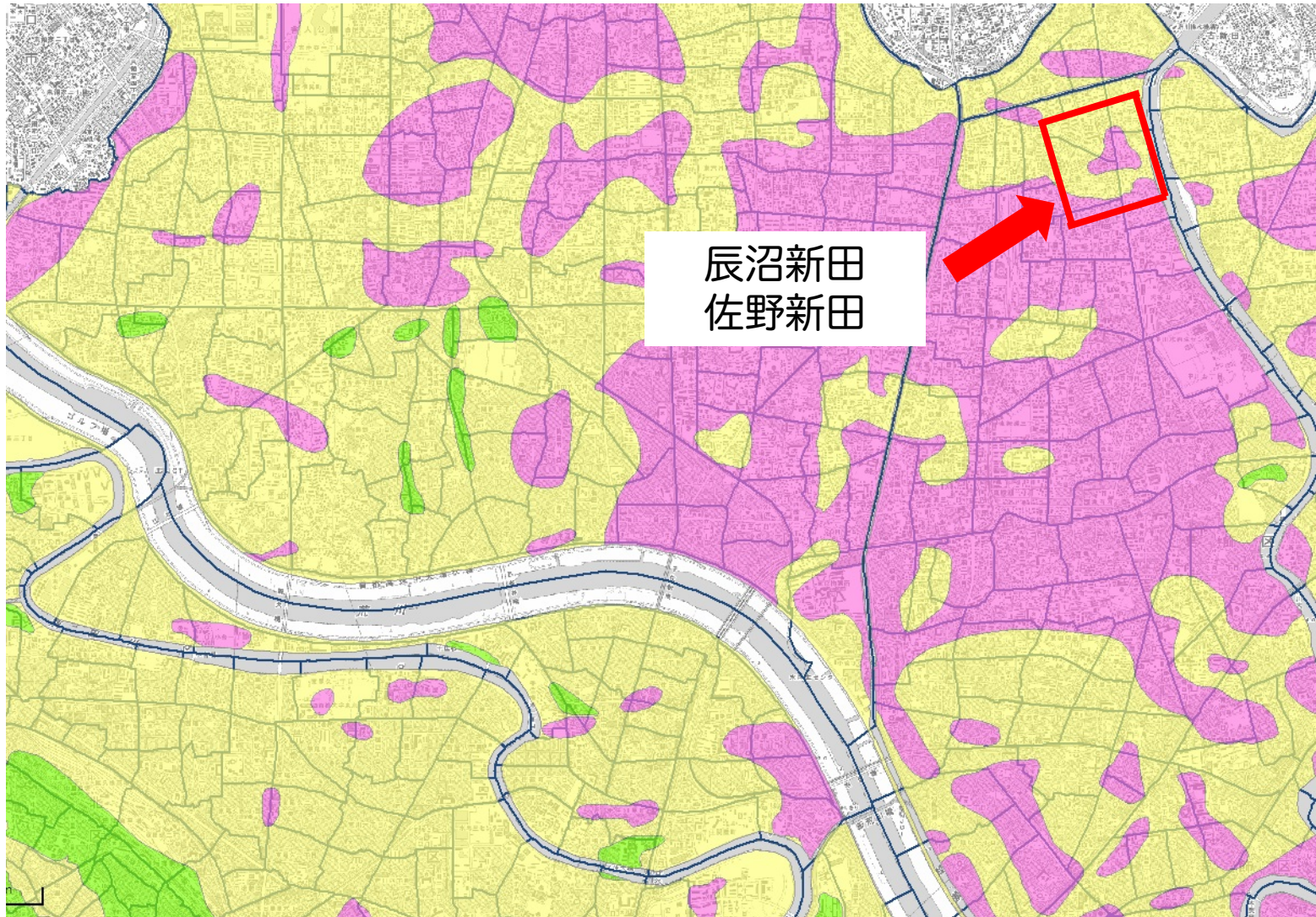
(1)足立区域の被災状況を示す史料

仮名垣魯文・燕栗園千寿作
『安政見聞誌』

「・・・隅田川西方千住大橋向之分は略之、
南方民家旅籠屋大破損、中程に崩れ家あり」

千住大橋の手前から、現在の北千住
あたりまで家屋破損の様子が見えた？

2.安政江戸地震 (2)足立区域の被害を示す新史料



2.安政江戸地震

(2)足立区域の被災状況を示す新史料

佐野新田

文禄2年(1593)開発

※幕府領

石高：233石余

家数：24 (1847年)

人口：161 (1847年)

足立区立郷土博物館蔵佐野家文書D-15
「宗門人別御改書上帳」(嘉永7年)

辰沼新田

寛永7年(1640)開発さ
名主は佐野新田と兼任

※幕府領

石高：77石余

家数：12 (1838年)

人口：95 (1838年)

「角川日本地名大辞典」編纂委員会編
『角川日本地名大辞典13 東京都』
(角川書店,1978年)

2.安政江戸地震

(2)足立区域の被災状況を示す新史料

足立区立郷土博物館蔵佐野家文書G-13

●佐野新田

家屋全壊1件、半壊2件、怪我人・死者なし
堤防決壊数カ所

●辰沼新田

家屋全壊1件、半壊1件、怪我人・死者なし

その日のうちに
速報を幕府代官に提出

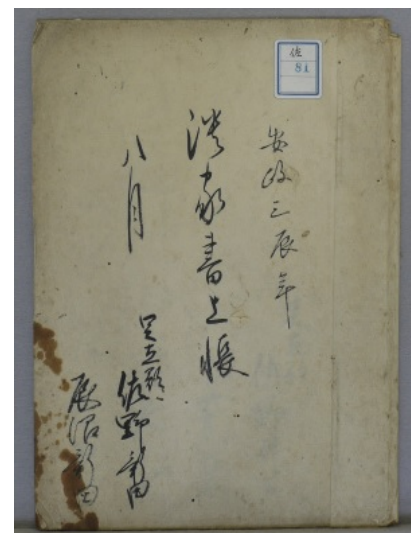
2.安政江戸地震

(2)足立区域の被災状況を示す新史料

足立区立郷土博物館蔵佐野家文書G-18
「潰家書上帳」 (安政3年)

●佐野新田
家屋全壊9件、半壊6件、怪我1人

●辰沼新田
家屋全壊4件、半壊4件、怪我人・死者なし



その後に被害拡大
逃げる間があった？
液状化による被害？

2.安政江戸地震

(2)足立区域の被災状況を示す新史料

足立区立郷土博物館蔵吉田家文書

「地震二付困窮人潰家小屋掛御手当御拝借借金割渡小前帳」 (安政2年)

●伊藤谷村

軒数 43 (1838年)

人口 222 (1838年) ※『角川日本地名大辞典』

→家屋全壊8件、半壊8件、怪我人記載なし

被害拡大
液状化による被害も？

3.安政江戸地震の村方救済事業 (1) 稗支給

足立区立郷土博物館蔵佐野家文書G-15

「当卯違作之上地震ニ付難渋者江貯稗御下ケ穀割渡シ小前帳」
(安政2年12月)

村役人3軒を除く24軒に、村で確保して貯めていた稗を村から支給

- ・ 男性53人 1日稗8合 30日分
- ・ 女性73+9人 1日稗4合 30日分
(60歳以上、15歳以下男性も含む)

3.安政江戸地震の村方救済事業 (2) 金銭貸し付け

足立区立郷土博物館蔵佐野家文書A-23
「御用留帳式番」 (安政2年)

ほかに小屋掛(仮設の家)手当として
全潰に金3分、半壊に金2分貸し付け

→10年賦で返却

3.安政江戸地震の村方救済事業 (3) 奉公受け入れ

足立区立郷土博物館蔵佐野家文書D-15
「宗門人別御改書上帳」 (嘉永7年3月)

佐野新田の土地状況

※幕府領

石高：233石余

家数：27 (1854年)

人口：180 (1854年)

一部の家に
土地が集中

- 27軒中11軒が無高
- 名主賢次郎126石余 (54%)
→無高の多くが賢次郎に「地借」
- 年寄治郎右衛門14石余
年寄増次郎 25石余
年寄豊次郎 34石余
→4人で200石ほど

3.安政江戸地震の村方救済事業 (3) 奉公受け入れ

足立区立郷土博物館蔵佐野家文書D-18
「宗門人別御改書上帳控」(安政3年3月)

No	高(石)	性	年齢	奉公先
1	0.12	男	25	名主賢次郎
2	0.12	男	19	年寄佐右衛門
3	23.769	女	?	不明
4	0.27333	女	14	年寄豊次郎
5	0.0666	女	22	古新田村岩右衛門
6	0.0666	男	27	辰沼新田治郎右衛門
7	0.0666	男	15	久佐衛門新田久右衛門
8	0	男	26	名主賢次郎
9	0	女	15	辰沼新田千代蔵
10	0.15	男	27	大谷田村久蔵
11	0.15*	男	36	年寄豊次郎
12	0.252	男	?	名主市仁**
13	0	女	19	年寄豊次郎

* No.10の家とは別

** この年に名主が賢次郎から息子の市仁に交代

3.安政江戸地震の村方救済事業

(3) 奉公受け入れ

- 地震前の嘉永6,7年には奉公に出た記録なし
- 奉公に出た11人中6人が村内有力農民へ
2人が関係の深い隣村の辰沼新田へ
- 地震後、液状化によって土地が被害をうけ、
家人を村内の有力農民に奉公へ出した？

被災による困窮が長期化する中、
「奉公」を村内で引き受けることで、
小農の負担減を図った可能性

4.近世社会と「トラウマ」

●地震に際し精神面での記録は少ない(皆無?)

①災害の原因を外部化する心性

・天譴論 ・地震鯨

北原糸子『地震の社会史—安政大地震と民衆』(吉川弘文館,2013,初出2000)

→「天によって地震が起こった」と理解することは、人々が地震を受容する論理になったのでは？

cf.)仁政イデオロギー

4.近世社会と「トラウマ」

②精神障害者が「事例化」(≒犯罪者化)するまで
問わない社会

→精神障害者は、「在宅」or「指籠入れ」「狐憑き」

→犯罪行為の量刑決定に関心が高い社会
個々の「狂気」の理由を問うことは少ない？

屋田源四郎『疫病と狐憑き—近世庶民の医療事情』(みすず書房,1985)

4.近世社会と「トラウマ」

③ 「イエ」を社会の構成単位とする近世社会
「個人」は社会のなかで位置付かない

→明治に入り、精神病は「個人性」に仮託される

精神病ハ不治ノ脳病ニアラズ、鑒診其時ヲ失ハズ治療其当ヲ得レバ亦頗ル治癒スベキノ疾病ナリ、然レトモ其ノ此ノ如キモノナルコトヲ知リシハ近時ノミ、未ダ其病ノ本性ヲ知ラザリシ時ニ当リテハ豈ニ其治療ヲ謂フコトヲ得ンヤ… (中略)

蓋シ精神病ハ彼ノ数多ノ植物器官ノ疾病ニ異ナリテ、嚴峻ニ箇人性ナルモノニシテ、治療ノ要領ハ繋リテ箇人病ノ既往史其病性病因ニ在リ、一定通有ノ療法軌轍アルコトナシ

4.近世社会と「トラウマ」

③-2 たゞし近代に入って「トラウマ」の認知が 上がったわけでもない

しかし、わが国では、当初より(19世紀末—三村注)、災害や事故や戦争の際の心的外傷に関してそれほど強い問題意識が持たれてきたわけではなかった。この傾向は当初からみられ、初期においては、一部の医家が、欧米の疾患概念を移入・すり合わせをして自験例を報告する機会が多く、関心が薄いこの分野への認識を拓げるための啓蒙的な意味合いをもっていたようである。

菊池浩光「わが国における心的外傷概念の受けとめ方の歴史」 p.106
(『北海道大学大学院教育学研究院紀要』119,2013)

5.おわりに

トラウマのポリティクスという問題
→社会のありようと「トラウマ」の社会化

ジョゼ・ブルンナー「傷つきやすい個人の歴史—トラウマ性障害をめぐる
言説における医療、法律、政治」(『思想』972,2005)